第７章　「ベトナム反戦運動」の再来か!?
――全米に広がる「ガザ虐殺（ぎゃくさつ）」「民族浄化作戦」への抗議運動

ガザ攻撃に抗議してアメリカに広まる、超正統派ユダヤ教徒による納税拒否運動
https://libya360.wordpress.com/2024/04/12/tax-resistance-movement-grows-in-response-to-u-s-support-for-gaza-genocide/

1

ウクライナ軍の敗北が誰の眼にも明らかになってきているので世界の眼をウクライナから逸らすためでしょうか、バイデン政権はモスクワ郊外でテロ事件を起こしたり（三月二二日、コンサート会場クロッカス・シティホール銃乱射事件、１４５人死亡、５５１人負傷）、イスラエルのネタニヤフ政権がガザ殲滅作戦を起こすことに「ＧＯサイン」を出したりしたようですが、この戦術も成功したようには見えません。

というのは、イスラエルの「ガザ殲滅作戦」があまりにもむごたらしいので、欧米以外の世界はこの作戦にたいして一斉に「ＮＯの声」を上げ始めたからです。

ユダヤ人がアウシュビッツで大虐殺された歴史を知っているので、今まではイスラエルの行動に遠慮して、欧米以外の世界の世論は、それに抗議の声を上げることに躊躇してきたわけですが、今度ばかりは堪忍袋の緒が切れたようです。

南ア政府が勇気をふるってイスラエルの蛮行をＩＣＪ（国際司法裁判所）に提訴し、ＩＣＪも世界の世論に押されて、イスラエルの蛮行を「大量殺戮（GENOCIDE）」という判決を出さざるを得なくなったことも、このような流れを加速しました。南アの民衆も「アパルトヘイト」という痛々しい黒人差別の歴史を背負ってきているので、このような政府の行動を支持してきました。

2

こうしたネタニヤフ首相とバイデン大統領の「人権と民主主義をあからさまに踏みにじる行動」は、彼

らが今までに自らが掲げてきた理念がいかに欺瞞に満ちたものであったかを世界中に曝すことになりました。プーチン大統領がアメリカを「嘘の帝国（The Empire of Lies）」と呼んできたことが、イスラエルの行動で改めて証明されたことにもなりました。

ロシアの大統領選挙でプーチン大統領が「87・3％の支持率」で圧勝したことは、ロシア民衆が欧米の掲げる理念の偽善性に愛想を尽かし始めていることを世界にハッキリと示すことになりました。プーチン政権を倒すために欧米が一斉に経済制裁に乗り出しても、「ブーメラン効果」で逆にEU経済を痛めつけることにもなりました。

このような流れを少しでも食い止めようと密かに画されたのがモスクワ近郊「クロッカス・シティホール」の大テロ事件だったわけです。

なぜなら、140人を超える死者を出したテロ攻撃にたいしてISISと言われるイスラム原理主義勢力は即座に犯行声明を出しましたが、本来のイスラム原理主義勢力は「金をもらって行動しない」「大義のためには自爆しても最後まで闘うジハード」を旨としてきたはずですが、今回の実行犯は「金をもらっていたこと」「ウクライナを脱走路としていたこと」が明らかになっているからです。

そもそもISISなる勢力は、アメリカがつくり出した「アルカイダ」なるイスラム原理主義集団の末裔であり、シリアのアサド政権やリビアのカダフィ政権を倒すためにつくられたイスラム原理主義集団であることは、よく知られた事実ですから、「また同じ戦術か」と思ったひとは少なくなかったはずです。こうしてキエフ政権がCIAと一緒に画策したと疑われる戦術も、プーチン政権を揺るがすことに失敗しました。

3

他方、イスラエルの「ガザ殲滅作戦」も世界中の世論を敵に回すことになり、必ずしも成功していません。それどころかイエメンの「フーシ派」と言われる勢力までもネタニヤフ政権の「民族浄化作戦に抗議する」と言って、紅海を航海するイスラエルとの貿易船を攻撃し始めたのですから、ネタニヤフ首相も次の手を考えなくてはなりません。

イエメンの「フーシ派」は、今までアメリカが支援するサウジアラビアの攻撃でさんざん痛めつけられてきた経過がありますから、アメリカの支援と黙認で許されてきたパレスチナ人への虐待と悲しみが痛いほど分かっていたからでしょう。

そして、この「フーシ派」の攻撃はイスラエル経済に少なからぬマイナス効果をもたらし始めました。

そこで考え出されたのが、シリアのイラン大使館をミサイル攻撃してイランを戦争に引っ張り出し、それを口実にバイデン政権を自分たちの戦争に加担させようとする作戦でした。

しかし、この作戦も成功しませんでした。というのは「外国大使館」というのは一種の聖域ですから、それを攻撃するのは「戦争犯罪」になります。だから、バイデン氏も乗り気ではないようです。

かくして、このネタニヤフ首相の作戦も頓挫した観があります。

4

それはともかく、イランのイスラエルに対する報復攻撃が、世界に思わぬ反響を呼んでいます。世界最

強の軍隊のひとつと言われていたイスラエル軍が意外にもろいことが世界に露呈してしまったからです。イスラエル軍基地にたいするイランの反撃が見事に成功したからです。

他方、アメリカの国内でも、大学を中心にして、着実に反戦運動が広がっています。それを典型的に示したのが、名門コロンビア大学における「泊まり込み」抗議運動でした。

学生たちはイスラエルに対するＢＤＳ「不買運動、投資撤退、経済制裁」をスローガンに掲げて、大学でテント生活を始めたからです。

「ガザ殲滅作戦」に抗議して、学生たちが名門コロンビア大学で「泊まり込み」運動
https://www.rt.com/news/596432-columbia-university-jewish-students/

まるでベトナム反戦運動の再来かと思わせる光景です。

バイデン大統領も、このような動きを鎮圧するために露骨な言論弾圧を始めています。

しかしベトナム戦争で敗北したのと同じように、アメリカやイスラエルは少々時間がかかっても必ずや敗北するでしょう。イスラエルの名門紙『ハーレツ』でさえ暗い見通しを書き始めているのですから。

5

イスラエルは「ラベンダー」と呼ばれるＡＩ暗殺マシーンを使って大量殺戮（さつりく）「ジェノサイド」を実行してきましたが、その残虐（ざんぎゃく）行為は世界の世論を敵に回すことになりました。イスラエルを支持して

いるのは欧米社会のみです。

元ロシア大統領メドベージェフは、「アメリカはゼレンスキー大統領を暗殺してその責任をロシアに転嫁することによって事態を打開する作戦を考えているフシがある」と述べています。これはなかなかの名案です。

そうすれば、ＮＡＴＯは暗殺を口実に結束してロシアに襲いかかることができますし、たとえそれが失敗しても、その事態を口実にうまくウクライナ紛争の幕引きをして、勢力を中東や中国に集中できるからです。

しかも、日本もその一翼を担い、日本の軍事化を一層強力に推進しようとしています。ドイツがアメリカの言いなりになり、確実に経済活動が停滞して崩壊に向かい始めていますが、同じ道を日本もたどるのでしょうか。

6

イスラエルの蛮行にたいする抗議行動が全米の有名大学に広まり、ＩＣＪ（国際司法裁判所）がネタニヤフ首相への逮捕状を出すかも知れないというニュースが入ってきています。

南ア政府がＩＣＪ（国際司法裁判所）に提訴して「民族浄化の恐れがあるから軍事行動を中止・停止すべし」という判決が出たあと、今度はＩＣＣ（国際刑事裁判所）からも逮捕状が出されるかも知れないというのですから、バイデン大統領もネタニヤフ首相も焦っていることでしょう。

イスラエルはＩＣＣを認めていませんから、この逮捕状が出たからといってすぐに逮捕されるわけでは

ガザ地区の惨状。医療施設跡地の「集団墓地」から発掘された遺体に臓器がなかった!!
https://thesun.my/world/bodies-uncovered-in-gaza-mass-graves-raise-suspicions-of-organ-theft-paramedics-and-rescue-teams-GI12386770

ありませんが、少なくともＩＣＣを認める国に外遊した場合、そこで逮捕が可能になります。

そのうえ、イスラエル軍が医療施設を爆撃して更地にした後の集団墓地を発掘してみると、臓器のない多くの遺体が出てきて、イスラエル軍の行動は臓器売買にも関わっている疑いすら出てきました。

すでにウクライナ軍も、戦闘地で殺したロシア軍兵士や戦死したウクライナ軍兵士から臓器を取り去って売買する仕事に従事していたことも、暴露されています。

アメリカ、イスラエル、ウクライナは、「三位一体」ですから、どこでもやることは同じなのかも知れません。次の記事はそのことを報じたものです。

＊ “When You See It, You Won't Forgive”: Part III of an Investigative Report on Human Trafficking in Ukraine
「それを見れば、だれも許さないだろう―ウクライナにおける人身売買についての調査報告、第３部」
http://tnmmethod.blogfc2.com/blog-entry-1366.html（翻訳ＮＥＷＳ」2023/03/29）

7

というわけで情勢がめまぐるしく動いているので、ブログ「花だより」も手につきませんし、おまけに隣家から「お宅の樹木が拙宅の敷地まで大きな枝を伸ばしているので至急、伐採して欲しい」と言われ、伐採と後始末に消耗してしまいました。

だから相変わらず、『反中国心理作戦を脱却せよ』第2巻の校正も進んでいません。サイト『翻訳NEWS』の素材情報を「翻訳グループ」の皆さんに送る仕事も遅れています。そこで今日は取り合えず手元にある情報で、どうしても送っておきたいものにしぼって発信することにしました。

〈本章のキーワード〉

イスラエル軍による臓器売買、ウクライナ軍による臓器売買
イスラエルの「ガザ殲滅作戦」「民族浄化作戦」
ジェノサイド（GENOCIDE、大量殺戮・集団虐殺）

ＩＣＪ（International Court of Justice、国際司法裁判所）
ＩＣＣ（International Criminal Court、国際刑事裁判所）
ＢＤＳ運動（Boycott, Divestment and Sanctions「不買運動、株引上げ、経済制裁」）
ハアレツ（Haaretz、イスラエルの有力紙。ヘブライ語で「土地」という意味。中道左派系）
ラベンダー（Lavender、ＡＩ暗殺マシーン。ＡＩによって作成された「暗殺リスト」による大量殺人）
「アルカイダ」の原義は「データベース」、すなわちＣＩＡの「イスラム原理主義集団の名簿」